



Global Studies Initiative  
The University of Tokyo

グローバル・スタディーズ・セミナー  
「グローバル・スタディーズの課題」シリーズ

## 第13回

# 「『宗教的なもの』から広がるもうひとつの グローバル・スタディーズ」

伊達 聖伸 総合文化研究科 地域文化研究専攻 准教授

司会 馬路智仁(総合文化研究科 国際社会科学専攻)

討論者 田辺明生(総合文化研究科 超域文化科学専攻)  
國分功一郎(総合文化研究科 超域文化科学専攻)

使用言語 日本語

### 日時・会場

2021年5月18日(火) 14:55 - 16:40

Zoom Webinar (下記URLからご登録ください。)

<https://bit.ly/3sw3Zp9>

### 要旨

今日の世界で宗教はグローバルな広がりを持つと言え、政治的には世俗的な近代主権国家を相対化するものとして、経済的には資本主義とは異なるヴィジョンを提示する契機として、期待と不安を人びとは抱くかもしれない。だが、そもそもここで語られる「宗教」とは何なのだろうか。これまで私は、「宗教」と「世俗」の枠を再構成しつつ、「宗教的なもの」にアプローチしてきた。「世俗」の分析に際しては、普遍主義的志向を持ちながら、特殊フランス的なものとも言われるライシテの逆説的な性格に注目してきた。ライシテは、世俗的な価値観でありながら、宗教性を帯びることもある。ライシテは、政治と宗教の構造的な関係を比較の観点から論じる切り口でもある。フランス、ケベック、日本という各地域の歴史的文脈と他地域とのネットワークを意識した、もうひとつのグローバル・スタディーズの可能性について考えてみたい。